

# ブライアン・ウィリアムズ先生に学ぶ 水辺の親子写生教室 & はっけん号乗船体験

主催:



協賛: 東レエンジニアリング西日本株式会社  
後援: 大津市教育委員会

【開催日】 2024 年8月 24 日(土)

【開催場所】 道の駅 びわ湖大橋 米プラザ 2階コミュニティルーム 光彩 (滋賀県大津市今堅田)

【参加者】 親子 17 組 34 名(2 名 1 組)

… 子供 17 名 (小2;5名、小4;8名、小5;2名、小6;2名)  
大人 17 名

10:00 ~ 10:10	開会 (オリエンテーション)
10:10 ~ 11:00	講義; ブライアン・ウィリアムズ先生
11:00 ~ 15:00	自由写生 & はっけん号乗船体験
15:00 ~ 15:30	作品発表 & 講評、+集合写真撮影

## プログラム

### 概要(イベント開始前の様子)

親子環境学習講座として毎年恒例の「(風景画家)ブライアン・ウィリアムズ先生に学ぶ水辺の親子写生教室」を、今年も昨年と同様「道の駅 びわ湖大橋米プラザ」において開催しました。

米プラザは、1 階に滋賀の生鮮品・加工品の直売所やお土産売店ならびにレストラン、2 階にコミュニティルーム(研修室)や休憩所を備えた道の駅ですが、施設から琵琶湖の素晴らしい景色を眺望できることから、湖岸で写生を楽しむのに好適な場所として、2015 年以降、ほぼ毎年写生教室の会場として利用させていただいています。

道の駅

びわ湖大橋米プラザ全景



一方、この米プラザ東側に隣接する湖岸には、琵琶湖汽船株式会社が管理する棧橋が併設されており、中～大型船舶の停泊が可能であることから、写生教室開催時には、併催行事としてびわ湖トラストが所有する実験調査船「はっけん号」への乗船体験を行うことも恒例としており、今年も例年どおり併せて実施することとしました。

事前の天気予報では、当日は曇り時々雨と予想されていたため、多少の雨に見舞われることを覚悟していましたが、蓋を開けると朝から好天に恵まれ、むしろ熱中症が懸念されるほどの快晴・猛暑日となりました。

暑さは厳しかったものの、青空の下で琵琶湖の景色が映え、波も穏やかであったことは、写生と船の運航にとっては、むしろ抜群なロケーションであったと言えます。雨予報が外れたことは幸運でした。

当日の写生教室参加者は、親子 17 組 34 名でした。ブライアン先生の写生教室は大変人気の企画となっており、今年は定員 30 名の募集に対し、その倍近くの 57 名の申込みがあったため、定員を増やして 39 名(はっけん号乗船 36 名)に参加証を発行したのですが、前日から当日にかけてお子さんの体調不良や親御さんの都合により 5 名のキャンセルが発生し、最終的に 34 名となりました。

せっかく申し込んだのに参加できなかった方々が大勢おられることはとても心苦しく思いますが、はっけん号に乗船できる人数や米プラザ会場に入れる人数に制約があることから、一部の方の参加をお断りせざるを得なかったことについては、ご理解・ご容赦いただきたく思うところです。

当日受付に来られた親子は大半がお母さんとお子さんの組み合わせでしたが、お父さんとお子さんの組も 4 組、お爺さんとお孫さんの組も 1 組おられ、ほぼ満席となった米プラザの会場は、始まる前からワクワク感溢れる様子でした。

オリエンテーションで司会者が注意事項等の説明を行う少し前には、会場前方でブライアン先生が年季の入った愛用の画台をセットする様子を参加親子たちに披露されましたが、ブライアン先生のユーモ



琵琶湖汽船の棧橋に停泊するはっけん号

ラスな仕草やサポートのひろ子先生との愉快的掛け合いもあり、席上でそれを眺めていた子供たちからは既に笑い声がこぼれていました。お二人から伝わってくる親しみやすい人柄に、早速子どもたちの緊張は解れ、お陰でとても和やかな雰囲気です。写生教室のイベントを開始することができました。



愛用の画台をセットするブライアン先生とサポートのひろ子先生



## ブライアン先生による写生教室

写生教室では、初めの約 50 分間、ブライアン先生に琵琶湖のことや、写生の基本について講義をしていただきました。

前半の琵琶湖についての講義では、琵琶湖に生息・生育する様々な生き物が水質浄化の機能を担っており、その働きによって琵琶湖の生態系が保たれていること、それによって琵琶湖を糧とする人々の暮らしが支えられていること、ゆえに美しい琵琶湖の自然環境を保全していくことが自分たちにとって如何に大切なことであるかを、子どもたちにも解り易く流暢な日本語で説明していただきました。



琵琶湖のお話をするブライアン先生



熱心に講義に聴き入る参加親子の皆さん

後半の写生についての講義では、ブライアン先生が自ら筆をとり、目前に広がる琵琶湖の景色を描く実演をしながら、空の青色のグラデーションのかけ方、画用紙の白を生かした雲の描写の仕方、水面の細かい波模様の描き方、前景となる草木の表現の仕方など、写生の基本的な技法について丁寧に教えていただきました。



写生の実演をするブライアン先生

また、途中からは子供たちを前方に集め、一人ずつ順番に筆を持たせて、今教えたことを実際にキャンパス上に加筆・体験させることで、描き方を少しでも身に付けてもらうための指導もありました。



子供たちを集めて実際の描き方の指導をされるブライアン先生





## 親子での自由写生

講義の後は、参加者親子にはそれぞれ好きな場所へ移動し、自由に写生を楽しんでもらいました。

サポートのひろ子先生から、写生は子供たちだけでなく親御さんたちも一緒に描くよう促され、全員に画用紙が配られると、大半の親子は冷房の効いた研修室内で床に敷いたレジャーシートに画板を置いて、あるいは研修テーブルに持ってきた画材道具をセットして親子で和気あいあいと写生を始めました。何組かはバルコニー等の室外に出て日陰を選んで場所を確保し、親子仲良く並んで描き始めていましたが、中にはあまりの猛暑のために途中でギブアップして室内に再移動した組もあったようです。



好きな場所から写生を楽しむ参加親子たち

子供たちは勿論頑張って、自分の感性で捉えた風景を画用紙いっぱい描いていましたが、むしろお父さんお母さんの方が夢中と思えるくらい、真剣に景色を見つめながら筆を動かしている様子が印象的でした。おそらくお子さんと一緒に写生をするのは初めて、あるいは写生をすること自体が中学校を卒業して以来という人も多かったことと思います。

先ほどの講義でブライアン先生から、予めの下書き線は入れずに見えるまま直接着色していった方が

いいとアドバイスがあったことを受け、ほとんどの親子がそれを実践しようと試みていましたが、それが思いのほか難しくて苦戦している様子が見えられました。ただ、そのような中、ブライアン先生とひろ子先生が順番に各親子のところを回り、個別に色々と描き方のコツを指導して下さい、そのお陰で誰もがより前向きに久しぶりの水彩画を楽しむことができていたようでした。プロによるこれらの直接の指導は、参加者の皆さんにとって新鮮で、とても良い刺激になったと思います。



絵の指導をして廻る  
ブライアン先生とひろ子先生



## はっけん号乗船体験

自由写生の時間内に「はっけん号」への乗船体験を行いました。

はっけん号は、びわ湖トラストが様々な調査・観測・教育に利用している実験調査船で、総重量 36 トン、航海速力 20 ノットの双胴船(二つの船体を甲板で平行に繋いだ船)です。

道の駅 びわ湖大橋米プラザに隣接して設けられている棧橋(琵琶湖汽船管理)を停泊に利用させていただくことを前提に、米プラザ会場での写生教室の併催イベントとして恒例化(※)しており、昨年に引き続き今年も実施しました。 ※ ただし、2021、2022 年度は新型コロナ感染拡大等の影響により中止

乗船定員の関係で船長・機関士などの乗務員・スタッフを除く乗客定員を 12 名以内に抑えなければならない制約から、当日は 17 組 34 名の参加者親子を 2 名 1 組で 5~6 組ずつ A、B、C の 3 グループに分け、順番に乗船してもらうこととしました。



栈橋に停泊するはっけん号と、それに乗り込む参加者たち

各グループの運航配分時間(乗船・下船時間含む)は次のとおりとしました。

- Aグループ(親子 6 組 12 名) 11:40~12:30
- Bグループ(親子 6 組 12 名) 13:10~14:00
- Cグループ(親子 5 組 10 名) 14:00~14:50

各グループの親子には乗船時刻の10分前に研修会場隣の休憩スペースに集合してもらい、びわ湖トラストのスタッフがはっけん号の停泊している栈橋まで誘導。全員ライフジャケットを着用・乗船の後、参加親子が船室内に入室したのを確認した上で、甲板補助乗務員の合図とともに出航しました。

船の航路は、栈橋から一旦南方に向けて琵琶湖大橋の下をくぐり、南湖の中央付近まで行って折り返し。次に北に向かって再び琵琶湖大橋をくぐって北湖に進み、沖ノ島の近くまで北上して一時湖上停泊。その後折り返し南下して帰路で栈橋に戻るというコースで、航行時間は約40分としました。

小さなお子さんも居て船が航行している途中で甲板に出るのは危険なことから、航行中(特に往路)は船室内にて、船上講師として乗船いただいた中島拓男先生(元琵琶湖研究所上席総括研究員、元びわ湖トラスト理事)に、はっけん号の構造・機能のこと、琵琶湖の湖底地形や湖岸の状況などについて解説していただきました。皆熱心に中島先生の説明に耳を傾けていました。



船室内で船上講師として説明される中島先生と、その話に耳を傾ける参加親子たち

中島先生のひととおりの説明の後には、船室内の窓から自由に航行中の外の景色を眺めてもらったり、右舷実験室内の様子を観察してもらったりしました。



(左上)実験室の説明を受ける子供たち  
 (右上)船室窓から景色を眺める子供たち  
 (左)船室前方窓からの眺め

北湖での湖上停泊のときには全員甲板に出てもらい、時折中島先生より地形や風景についての説明を受けながら、親子で自由に広大な湖の景色や湖面の状況などを楽しく観察しました。



甲板から琵琶湖を観察する参加親子たち

なお、Bグループの湖上停泊中には、たまたま近くを滋賀県(びわ湖フローティングスクール)の環境学習船「うみのこ」が通り過ぎるのが確認され、親御さんからは、「うちの子も5年生になったらあの船に乗ることになるのね」などと言う声が聞かれ、興味深そうに眺めている様子も見られました。



滋賀県の環境学習船「うみのこ」

一定時間の湖上停泊の後、時間を見計らって航行を再開し、はっけん号は琵琶湖大橋栈橋に向かって水しぶきをあげながら帰路に就きました。その後各グループとも無事にほぼ時間どおり栈橋に帰港し、それぞれ約 40 分間の運航を終了しました。

参加親子の皆さんは、写生に加えて乗船体験までできたことに大変満足してくれた様子で、このことは当イベント終了時に回収したアンケート結果からも読み取ることができました。主催者としては企画が成功したと認識できたことに安堵するところです。



帰路で栈橋に向かうはっけん号

## 作品発表 & 講評

はっけん号乗船も全て終了して間もなく、15時から写生の作品発表会とブライアン先生による講評が行われました。

講評はA、B、Cのグループごとに順番に行われ、会場正面に親子の作品を並べて公開した上で、その1枚1枚について良く描けている点を中心にコメントやアドバイスをいただきました。

画用紙の白の活かし方、筆使いの力強さ、色使い、全体のバランス、細かい部分の描写・表現、独自性など、ブライアン先生による各絵の特徴を的確に捕らえた優しい口調かつユーモアを交えた丁寧な説明に、誰もが自分の絵が誇らしく感じられたことでしょう。



作品を並べて講評を始めるブライアン先生



作品1枚1枚について講評を述べられるブライアン先生

こうして全ての絵に対する講評を終えた後、ブライアン先生が講義で描かれたお手本の絵をプレゼントするというご褒美企画がありました。ブライアン先生によると、この日は体調があまり良くなかったこともあってお手本の絵はご自分としては不本意な出来とのことでしたが、「それでも欲しいですか?」との問いかけに、子供たちから「欲しい!!」「欲しい!!」と元気な声がたくさん挙がったことから、「それなら」ということで貰えることになりました。

ひろ子先生の掛け声のもと、前に集まった子供たちがジャンケンをし、最後まで勝ち残って絵を獲得した女の子はとても嬉しそうでした。



お手本の絵をめぐるジャンケン勝負をする子供たち



絵をもらって喜ぶ女の子

このようなサプライズで会場の盛り上がりも最高潮となった中、無事に写生教室を終了し、最後に全員で記念撮影をして、このイベントの閉会としました。

どの親子にとっても、この写生教室はきっと夏休みの思い出の一コマとして、心に刻まれたことと思っています。

(以上 尾藤 記)

全員で記念撮影



**講師：ブライアン・ウィリアムズ (Brian Williams) 氏**

**プロフィール**



大津市の湖西里山に在住するペルー生まれのアメリカ人です。  
 カリフォルニア大学で美術を専攻後、1972年に世界旅行で立ち寄った日本の自然・風土に魅せられそのまま定住。四季の移ろいを感じた心で追う風景画家として国内外を写生旅行し、数々の水彩画・油彩画・版画を作品発表されています。  
 大阪梅田ナビオ美術館・滋賀県立近代美術館他(1996)、近江八幡かわらミュージアム(2002)、松山三浦美術館(2006)、滋賀県佐川美術館(2007・2012)、清須市はるひ美術館(2013)、京都高島屋(2020)などでの数々の展覧会の開催をはじめ、「日本を描いて20年」(ふたば書房)、「心の風景画」(求龍堂)、「びわ湖・ブライアンの目」(ふたば書房)など多数の絵画・エッセー集も刊行。  
 琵琶湖博物館では、常設展示「380万年前の琵琶湖」再現原画作成(2003)に加え、2022年9月には来日50周年を記念して大型曲面油彩画(570cm×160cm)「琵琶湖 四季彩」を寄贈されています。



岡山大学教育学部特別教科(美術・工芸)教員養成課程卒。  
 高校・中学校・小学校などの美術の教師を勤められてきた先生で、毎年ブライアン先生に同行して、当写生教室でのブライアン先生の講義の補助や参加親子の写生指導サポートをさせて頂いています。



**補助講師：武川裕子氏 (ひろ子先生) プロフィール**

## 《《 参考 1 》》 当日スタッフ

運営担当	尾藤 武	びわ湖トラスト 理事
事務局	宮畑 孝子	びわ湖トラスト 事務員
ボランティア	尾上 大地 田原 瑠衣斗	びわ湖トラスト 理事 びわ湖トラスト 会員

## 《《 参考 2 》》 当日はっけん号運航

船上講師	中島 拓男	元琵琶湖研究所上席総括研究員
乗務員	本村 忠士 濱口 信教 辻 英人 熊谷 道夫	船長 機関士 機関補助 運航管理・甲板補助